



## 3. 主要事業の概要

## 【事業規模(営業収益)】

(単位:千円)

事業名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 予算	備考
① 花き卸売市場賃貸	562,321	499,047	611,648	618,300	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
全事業合計	562,321	499,047	611,648	618,300	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

## 【事業計画及び事業実績】

事業内容	事項	事業量		備考
		令和3年度実績	令和4年度計画	
施設の管理運営	大阪鶴見花き地方卸売市場	セリ資格者数 924人 取扱高 24,491,170千円	セリ資格者数 942人 取扱高 24,631,217千円	

## 4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 予算	補助金、委託料等の内容
補 助 金	0	0	0	0	
委 託 料	0	0	0	0	
貸 付 金	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	
合 計	0	0	0	0	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0
府借入金残高(期末)	0	0	0

## 5. 財務状況

(単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	<b>資産合計</b>	2,216,462	2,556,642	2,431,957	△ 124,685	(現金預金) 現金預金の増加については、卸会社からの売上高貴料の増(約174,583千円)、R2年度に整備したセリシステム分の支払いによる減(191,223千円)が主な要因である。
	流動資産	341,247	647,517	641,753	△ 5,764	(現金預金) 現金預金の増加については、卸会社からの売上高貴料の増(約174,583千円)、R2年度に整備したセリシステム分の支払いによる減(191,223千円)が主な要因である。
	現金預金	260,892	517,064	500,847	△ 16,217	(未収金) 未収金の増加については、朝日生命からの管理負担金の増(6,900千円)が主な要因である。
	未収金	1,217	3,071	7,725	4,654	(未収金) 未収金の増加については、朝日生命からの管理負担金の増(6,900千円)が主な要因である。
	その他流動資産	79,138	127,381	133,181	5,800	(その他流動資産) その他流動資産の増加については、リース投資資産の増(11,000千円)、前払費用の減(5,300千円)が主な要因である。
	固定資産	1,875,216	1,909,126	1,790,204	△ 118,922	(有形固定資産) 有形固定資産の減少については、減価償却に伴う減(102,256千円)が主な要因である。
	有形固定資産	1,792,672	1,705,848	1,604,366	△ 101,482	(有形固定資産) 有形固定資産の減少については、減価償却に伴う減(102,256千円)が主な要因である。
	無形固定資産	655	2,308	1,954	△ 354	(未払金) 未払金の減少については、R2年度に整備したセリシステム分の支払いによる減(191,223千円)が主な要因である。
	その他固定資産	81,889	200,970	183,885	△ 17,085	(未払金) 未払金の減少については、R2年度に整備したセリシステム分の支払いによる減(191,223千円)が主な要因である。
	<b>負債合計</b>	242,387	614,901	467,934	△ 146,967	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。
	流動負債	89,144	283,637	146,643	△ 136,994	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。
	短期借入金	17,302	57,716	69,609	11,893	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。
	未払金	58,983	216,469	31,407	△ 185,062	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。
	その他流動負債	12,864	9,453	45,626	36,173	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。
固定負債	153,243	331,264	321,291	△ 9,973	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。	
長期借入金	53,157	237,511	227,062	△ 10,449	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。	
各種引当金	886	1,153	1,629	476	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。	
その他固定負債	99,200	92,600	92,600	0	(長期借入金) 長期借入金の減少については、セリシステム導入による借入の増(47,000千円)、返済による減(57,000千円)が主な要因である。	
<b>資本合計</b>	1,974,075	1,941,741	1,964,023	22,282		
資本金	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0		
剰余金	174,275	141,941	164,223	22,282		
自己株式	△ 200	△ 200	△ 200	0		

損益計算書	売上高	562,321	499,047	611,648	112,601	(売上高) 売上高の増加については、R2年度実施の施設使用料減免措置解消による増(37,000千円)、取扱高増加による売上高貴料の増(39,000千円)、セリシステム使用料の増(40,000千円)及び事業者撤退による減(5,000千円)が主な要因である。
	売上原価	481,849	449,806	497,757	47,951	(売上原価) 売上原価の増加については、リース投資資産が増加したことによる減価償却費の増(43,870千円)が主な要因である。
	販売費及び一般管理費	82,918	84,197	83,233	△ 964	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	<b>営業利益(損失)</b>	△ 2,446	△ 34,956	30,659	65,615	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	営業外収益	5,233	4,464	4,500	36	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	営業外費用	527	268	1,552	1,284	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	<b>経常利益(損失)</b>	2,260	△ 30,760	33,606	64,366	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	特別利益	0	0	0	0	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	特別損失	7,777	70	5,989	5,919	(特別損失) 特別損失の増加については、固定資産除却損の増(2,580千円)、固定資産売却損の増(3,000千円)が主な要因である。
	法人税等	16,506	1,505	5,335	3,830	(法人税等) 法人税等の増加については、黒字により法人税、地方法人税等の増(3,830千円)が主な要因である。
	<b>当期利益(損失)</b>	△ 22,023	△ 32,334	22,282	54,616	(法人税等) 法人税等の増加については、黒字により法人税、地方法人税等の増(3,830千円)が主な要因である。
<b>繰越利益剰余金</b>	74,275	41,941	64,223	22,282		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

仕組債の保有状況	保有総額<令和3年3月31日時点>	保有総額(A)<令和4年3月31日時点>	時価評価額(B)<令和4年3月31日時点>	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	0	0	0	0

主な経常費用	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	10,327	14,491	15,524	1,033	(役員人件費) ・役員人件費の増加については、兼任取締役の在籍月数増(1,299千円)が主な要因である。 (職員人件費) ・職員人件費の減少については、アルバイトの業務一部見直しによる減(1,290千円)が主な要因である。 (減価償却費) ・減価償却費の増加については、R3年度取得資産(リース投資資産)の増(45,873千円)が主な要因である。
職員人件費	44,345	45,970	44,771	△ 1,199	
退職給付費用	246	267	476	209	
減価償却費	108,836	124,633	169,129	44,496	

主要経営指標		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比増減	分析・評価
人件費比率	人件費/売上高	9.8%	12.2%	9.9%	-2.2pt	・流動比率の増加については、流動負債の未払金の減(185,062千円)が主な要因である。
販売管理費比率	販売費及び一般管理費/売上高	14.7%	16.9%	13.6%	-3.3pt	
総資産当期利益率	当期利益/総資産	-1.0%	-1.3%	0.9%	2.2pt	
総資産回転期間	総資産/(売上高/12) (月)	47.30	61.48	47.71	-13.76	
売上高経常利益率	経常利益/売上高	0.4%	-6.2%	5.5%	11.7pt	
流動比率	流動資産/流動負債	382.8%	228.3%	437.6%	209.3pt	
借入金比率	借入金残高/総資産	3.2%	11.5%	12.2%	0.7pt	

## 6. R3年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)								
戦略目標	成果測定指標	単位	R2実績値	R3目標値	R3実績値	ウエイト	得点	小計
① 収益力の向上	当期経常利益	千円	△ 30,760	17,000	33,606	40	40	40/40 【100%】
II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)								
③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	5	6	6	10	10	39/50 【78%】
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等	回	6	12	12	5	5	
	新規買受人の獲得	人	6	18	10	15	4	
④ 施設改修	経営状況を勘案した施設改修	百万円	23	66	134	10	10	
⑤ CS調査	花き卸売市場に対する買受人の不満足度	%	12.9	12.0	12.0	10	10	
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)								
② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(t)／廃棄物総量(t))	%	73	75	76	10	10	10/10 【100%】

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

## 7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)
<p>R3年度の花き業界は、新型コロナウイルスの影響がなお大きいものの、R2年度に比べ回復基調にあった。イベント、プライダル関連等の需要の増加などがあり、法人が開設する市場として開設年度を除いて最も取扱高が少なかったR2年度と比べると、取扱数量は約3%増にとどまったが、取扱金額は約13%増の約244億91百万円となった。</p> <p>また、2期連続の単年度赤字から回復することを重視し、支出を抑制傾向としたことも相俟って、「当期経常利益」が33,606千円となり、最重点目標の項目で目標を達成することができた。</p> <p>市場活性化への取組みとしては、魅力ある市場としての機能拡充のため、セリシステムの機能向上や廃棄物の再資源化の促進など市場環境の整備に取り組んだ。</p> <p>また、消費拡大のためのイベント等の開催支援や市場関係者と生産地が連携して行う展示会・商談会も、感染防止に配慮しながら、目標どおりに実施できた。但し、新規買受人の獲得については、新型コロナウイルスの影響があり、花きの生産高が回復しないことによる仕入れ価格の上昇など、新規に花き小売店を開業するには厳しい環境であったことなどがあり、目標未達成となった。</p> <p>今後は卸売会社と連携し、生産地への出荷働きかけなど出店環境の改善に努めていくと共に、法人として、引き続き、単年度黒字を確保しながら、市場機能の強化に取り組むべく、施設整備の充実に努める。</p>	89

## 8. 府の審査・評価の結果

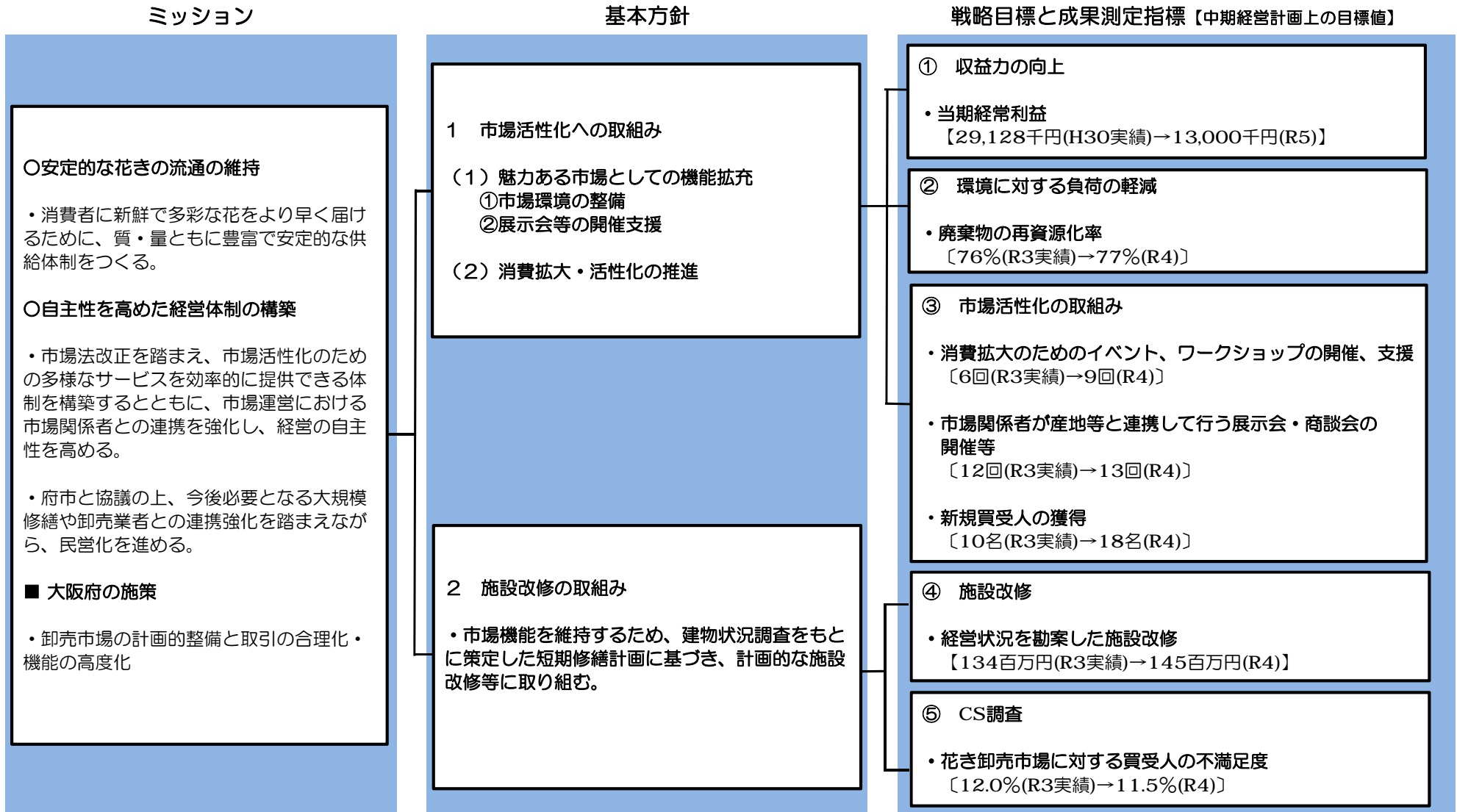
審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言	点数(合計)	役員業績評価
<p>①「収益力の向上」について R3年度の花き業界は、新型コロナウイルスの影響はなおあるものの、生産地に影響を与えた目立った天候不順も特になく、前期に比べ取扱数量、金額とも回復基調であった。 また、花きの取扱高増加に伴い、売上高資料が増加した一方、システム整備に係る減価償却費が増加した。 これらの結果、営業利益が31百万円となり、支払利息等の営業外損益を加減すると経常利益が34百万円となり、目標を達成することができた。</p> <p>②「環境に対する負荷軽減」について 分別等について場内事業者の協力を得ながら、再資源化に取り組んだ結果、目標を達成できた。</p> <p>③「市場活性化への取組み」について 新型コロナウイルスの影響がなお続く中、花き需要の喚起を図るため、イベント・ワークショップを積極的に開催等したことにより、前年度の開催件数を上回り、目標を達成できた。 また、花きの消費拡大を目的として市場関係者・産地が連携して行う展示会・商談会についても、感染防止に配慮しながら、前年度比2倍の回数を実施して目標を達成した。 一方、新規買受人の獲得については、新型コロナウイルスの影響があり、花きの生産高が回復しないことによる仕入価格の上昇など小売店の苦境が続き、新規出店を控える者が多かったことなどが、目標未達成となった。</p> <p>④「施設改修」について 経営状況を勘案しながら、優先順位を付け、必要最小限の改修等を実施することで、目標を達成した。</p> <p>⑤「CS調査」について 花き小売り業者へのアンケート結果の基づき必要な改善に努めた結果、不満足度は減少し、目標を達成した。</p> <p>今後は、コロナ禍においても、卸売業者等と連携しながら、さらに市場の魅力を広くPRするなどにより、新規買受人の増加に務めるなど、売上高の増加に向けた効果的な市場運営の取組みを進めていく必要がある。 一方で、必要な施設整備を行うなど企業価値を高める取組みを着実に進めることを求める。</p>	<p>(評価) ・最重要目標の「当期経常利益」、「消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援」及び「市場関係者が産地等と連携して行う展示会・商談会の開催等」については目標を達成しており、一定評価できる。 ・「新規買受人の獲得」については2年連続で未達成となっていることに加え、買受人全体数の減少が続いていることから、買受人の増加に向けた具体的な取組みが必要である。</p> <p>(指導・助言) ・府保有の株式の売却による法人の民営化を見据えた企業価値の向上を図るため、引き続き、経営状況を勘案した施設改修に取り組むとともに、市場活性化の取組みを通じ、取扱高及び収益の向上に努め、財務基盤の安定化を図ること。 ・「新規買受人の獲得」については、「西日本一の花きの品揃え」という市場の強みのPR等により、新規出店する小売業者及び他市場の買受人に対する登録促進を行うなど、取組みの強化を実施すること。</p>	89	B

## 9. 「令和4年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(令和4年2月)

- 民営化  
・府保有の株式の売却による民営化  
・ただし、売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する



## 10. 経営目標設定の考え方



## 11. R4年度 目標設定表

## I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	R2実績値	R3実績値	R4目標値	ウエイト (R4)	中期経営計画 最終年度 目標値 (R5)	
① 収益力の向上	当期経常利益	千円	△30,760	33,606	29,834	40	13,000	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)								具体的活動事項
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当市場が我が国の中核的・二大市場の一翼として安定的な花き流通に寄与するとともに、市場運営の車の両輪である卸売業者との連携強化(取組み支援)を通じ、魅力ある市場としての機能拡充を図り、より競争力のある市場を目指す。</li> <li>・民営化を進めるため、株式の売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場機能の強化のため、短期的に対応すべき修繕等を実施するとともに、中長期的な視点からの対策を検討する。</li> </ul>
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開場27年を超えており、短期修繕計画を踏まえ、優先度、緊急度、財務状況等を勘案し、計画的に維持管理を行っていく。</li> <li>・新型コロナウイルスによる収支への影響を勘案して、経営状況を見極めながら精査し、実施していく。</li> <li>・せりシステムを含む市場内システムの更新が円滑に行えるよう、関係者と調整を進めていく。</li> <li>・企業価値を高めるために、低温スペースの拡充など、市場機能強化のための事業実施を行う。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>[収益確保]</li> <li>・市場取扱高の増加支援のため、場内環境の改善や新規買受人の獲得、繁忙期の市場外での荷受けや引き渡し場所の安定的確保に努める。</li> <li>[経費削減]</li> <li>・電灯の間引きの継続や一部街灯のLED化による光熱水費の削減</li> <li>・システム改善技術支援業務の縮小による業務委託料の一部削減</li> </ul>
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスによる影響を見極めながら、取扱高の増加に資する市場機能の強化等を検討。</li> <li>・市場を取り巻く厳しい環境を踏まえて、引き続き、経費削減を図る。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>[施設整備と機能向上]</li> <li>・市場内施設の修繕、更新について優先度をつけて実施</li> <li>・花きの品質保持のための、低温スペースの拡充</li> <li>・市場機能強化のための検討</li> </ul>

## II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	R2実績値	R3実績値	R4目標値	ウエイト (R4)	中期経営計画 最終年度 目標値(R5)	戦略目標達成のための活動事項
③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	5	6	9	10	-	新型コロナウイルスの状況を見据えながら、卸売業者に限らず、他の市場関係者や商業施設とも連携したイベントやワークショップの開催を支援する
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等	回	6	12	13	5	-	市場内ギャラリーで各産地の開発商品を展示するとともに、ズームなどWEBも活用して、買受人へ多彩な商品を紹介する場を設ける
	新規買受人の獲得	人	6	10	18	15	-	「西日本一の花きの品揃え」や「WEBせり」など当市場の魅力について広くPRし、新規買受人を獲得する
④ 施設改修	経営状況を勘案した施設改修	百万円	23	134	145	10	-	経営状況等を勘案しながら計画的な施設改修と設備投資を行う ・低温スペースの拡充 ・場内空調工事
⑤ CS調査	花き卸売市場に対する買受人の不満足度	%	12.9	12.0	11.5	10	-	・車の入場規制、誘導方法、市場内物流の改善 ・掲示機能の充実 ・場内環境の改善

## III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(t)／廃棄物総量(t))	%	73	76	77	10	-	花き包装容器等の廃容器などを大量に排出することから、環境に対する負荷の軽減に向けて取り組んでいく
---------------	-----------------------------------	---	----	----	----	----	---	--

※ ( )は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値